

“絆”きずな

事業所リレーエッセイ パートII 気仙沼

東日本大震災時に避難所への支援を経験する中で、被災地の方々のために自分は何が出来たのか？という葛藤がありました。時間の経過と共にその気持ちは薄れていきましたが、震災から3年後、再び訪れた被災地の現状に愕然としました。リハビリを通して皆さんの笑顔を増やしたいという思いから、財団へ入職し神奈川県から気仙沼への移住を決断しました。訪問先の皆様からのあたたかい言葉に私のほうが元気を頂き、日々奮闘しているところです。震災による住居や周囲の環境の変化により、身体機能だけでなく精神的な不安を抱えている方々に寄り添い、少しでも生活が楽になるようなサポートを行っていきたいと思っています。訪問リハの利用をお待ち頂いている方も多い現状ですが、スタッフ一丸となり地域の皆様の期待に応えられるよう健闘して参ります。

一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 吉井真理子
気仙沼訪問リハビリステーション 管理者 作業療法士

訪問リハ・地域リーダーの“絆” ご当地紹介③ 愛知県編

今年の愛知県は、15歳で歴代最多連勝記録を達成した藤井4段や耐震性に問題がある名古屋城を木造建て替え工事など様々な話題がありましたが、私としては名古屋駅前の開発がどんどん進んでいることが1番の話題だと思います。地元の私でも変化についていけないです。名古屋にお立ち寄りの際は、名古屋駅で迷子になってみるのもいいかもしれません。

さて、愛知県の理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会は2013年に事業協定を締結を行い、これまで3士会による介護予防人材育成を中心とした様々な活動を行っております。愛知県訪問リハビリテーション連絡協議会による訪問リハ実務者講習会もここ2年間は3士会の共同事業と位置づけ開催をしております。

PT・OT・STともに日本でも有数の会員数を誇る愛知県は療法士同士のつながりを作ることにも苦戦をしてきましたが、以前から3士のコミュニティを持っている訪問リハ連絡協議会のメンバーが各士会の事業担当にもなり運営でのスムーズなやり取りに一役も二役も買っております。

愛知県訪問リハ・地域リーダー 言語聴覚士 村瀬 文康
株式会社ジェネラス 訪問看護ステーションほたる

南から始まる訪問リハビリテーションの魅力 in 奈良県

以前、“作業療法士は「作業」の専門家である”と先輩OTから教えていただいたことがあ。簡潔な言葉であり、本質を言い当てた内容であると感じ、今でも記憶に残っています。訪問リハビリの魅力は、「作業」を身近に感じることができる現場であることだと思っています。対象者様が、いつ・どのような環境で・こういった形態で・作業を行い、どのような気持ちになるのか。その作業がその人となりどのように影響したのかを実際の場面で知ることができます。そして、対象者様と話し合い、大切な作業を再開するために、様々な支援や提案を行っています。

こういった場面で作業療法士としてのやりがいを感じます。また、実際の作業場面で、満足した表情を確認できることは訪問リハビリの魅力であると思っています。今後もしっかり個人個人の作業と向き合っていきたいと考えています。

奈良県訪問リハ・地域リーダー 作業療法士 中田 慎吾
ユーティー訪問看護ステーション